

第5学年国語科 学習指導案

平成30年10月26日(金)

指導者 大坂 央子

場 所 5年教室

1. 単元名 物語のよさを解説しよう

2. 教材名 注文の多い料理店

3. 単元の目標

○物語のおもしろさの工夫を探しながら読み、自分の考えを深めたり、友達と進んで交流したりしようとする。(国語への関心・意欲・態度)

○物語の構成をとらえ、物語のおもしろさを生み出す優れた表現を見つけて、自分の考えをまとめることができる。(読むこと)

○物語の構成の工夫や、比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4. 言語活動とその特徴

本単元では、「おもしろレシピ」を書き、伝え合うことを言語活動として設定した。物語の構成や文章表現の工夫などから、物語のおもしろさを発見し、レシピにまとめ、伝え合う活動である。

「おもしろレシピ」を書くことを念頭に置いて物語を読み、何がどうおもしろかったのか自分の言葉で解説する。学習を進めるにつれて、気づきや発見が増え、「物語のおもしろさ」の認識が深まると考える。「読むこと」の指導事項「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」の達成をねらうことができる言語活動であると考える。

5 基盤

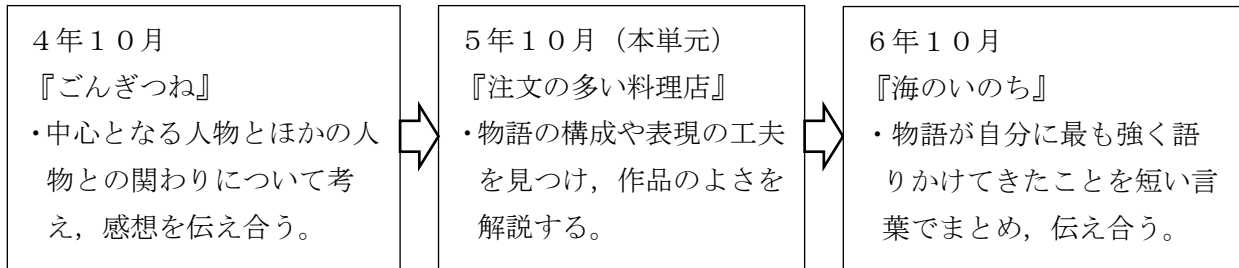
(1) 教材について

本教材は、作者が工夫を凝らした構成や文章表現などに着目して読むことで、物語のおもしろさを味わうことができる。本教材が、現実→非現実→現実という流れになっていることや、「戸」と「戸に書かれている言葉」がくり返されるという展開を捉えさせ、そこに作者のどんな意図が込められているのか、またその効果について考える学習を行うことを通して、物語をより深く味わうことができると思う。

この物語は、「始まりの場面」「山場に向かうところ」「山場」「終わりの場面」という4つの場面で構成され、現実の場面である「始まりの場面」「終わりの場面」の間に、非現実の場面「山場に向かうところ」「山場」が位置付けられている。山深いところにある「注文の多い料理店」を舞台として、二人の紳士と山猫の行き違いがユーモラスに描かれている作品である。二人の紳士はご馳走を期待し、山猫は二人をご馳走として食べられるように注文を繰り返す。最後に、二人は身勝手な言動から、消えることのない印を顔につけられてしまう。命を軽視した二人の紳士が注文を聞いたあげく仕返しを受けるという話である。物語の構成や「戸」と「言葉」の仕掛けの繰り返しによ

りテンポのよい物語の展開になっていることで、児童は戸の奥へ奥へと進んでいく期待感を味わいながら読み進めることができる。また、この作品は、展開のおもしろさに加え、それを支える優れた表現をたくさん見つけることができる。「おなかにお入りください」「すぐ食べられます」など「戸」に書かれた言葉の二重性、「白い瀬戸」「黒ぬり」などの色、「ザワザワ」「カサカサ」などの擬声語、「白くまのような犬」「くしゃくしゃの紙くずのような顔」などの比喩表現である。これらの表現の効果を考えることで、作品を一層楽しむことができる。

《学習の系統》



(2) 児童について

<個人情報保護のため省略>

(3) 指導について

【単元全体を通して】

児童が主体的に学んでいけるように、次のような3つの手立てを考えた。1つ目は、第一次の単元導入時に指導者が「おもしろレシピ」のモデルを示し、「物語のおもしろさをレシピにまとめ、交流しよう」という学習の見通しを持たせることである。2つ目は、第二次において、初発の感想をもとに、子どもの問いを生かした課題作りをし、自分たちの問いを自分たちの話し合

いで明らかにしていく意識を持たせることである。3つ目は、第三次にむけて、指導者が選書した宮沢賢治の本の中から、児童が好きな本を選んで並行読書をしていくことである。「おもしろレシピ」を書くという目的意識を持って読書をするので、意欲が持続すると考える。

指導にあたっては、第一次では、1学期に学習した物語文「世界でいちばんやかましい音」を題材に「おもしろレシピ」のモデルを示す。学習した内容なので、イメージしやすいと考える。

第二次では、場面ごとに割って詳細に読み取るのではなく、全文シートを活用して、視点をもって読み取っていく。こうすることによって、物語の全体を意識し、物語の構成を考えて読み取ることができると思う。また、作者が工夫を凝らした構成や文章表現（仕掛け、擬声語や擬態語など様子を表す言葉、色彩を使った表現、たとえを使った表現など）に着目して、物語のおもしろさを見つけさせる。何がどうおもしろかったかを友達同士で交流し、その上で、自分が最もおもしろいと思った点や他の人に気をつけて読んでほしい部分について観点をしばってレシピに書かせたい。レシピにまとめる際には、発見したおもしろさが読み手に一目で伝わるように「〇〇がおもしろい」「〇〇がたくさんある」など小見出しを考えて、自分が理解したことを文章で説明するようにさせたい。このようにレシピにまとめることで、物語のおもしろさをより深く味わわせたい。また、自分が発見したおもしろさを友達と交流することを通して、自分の考えを広げたり、深めたりさせたい。

第二次の後半には、「始まりの場面」と「終わりの場面」に描かれている二人の紳士の変容を比べたり「なぜ、作者は紙くずのようになった紳士の顔をもとにもどさなかったのか」の意味を考えたりすることを通して、物語の主題に迫りたい。

本教材の読み取りを通して、「物語のおもしろさを読み取る力」を育てるとともに、日常の読書活動につなげていく。

第三次では、並行読書した宮沢賢治の作品の中から一番好きな本を選んで「おもしろレシピ」を書き、友達と交流する活動を行う。このことを通して、児童の読書活動を広く豊かなものにしていきたい。

【本時の指導について】

本時は、戸に書かれた言葉の二重性や紳士の人柄を明らかにし、物語のおもしろさを話し合い、それぞれが自分の言葉でレシピにまとめる学習である。この学習を通して、児童は、言葉の使い方の違いや意味の違いに着目するようになると思う。

「山場に向かうところ」「山場」の場面から、「しんしは、なぜ、だまされていることに気づかなかったか」と問い、物語のしかけ（物語のおもしろさ）について考えていく。まず、【ひとり学び】で「紳士が気づかなかった所」には青で、それを生み出す物語のしかけには赤でサイドラインを引き、焦点化する。そして、なぜ気づかなかったのか、叙述から理由を考えワークシートに書く。その後、【ペア学び】でお互いが見つけた紳士の様子とその理由を紹介し、考えを確かにするので、【みんな学び】での意欲へとつなげたい。そして、【みんな学び】で考えを交流し、整理していく。最後に、学習したことをもとに、自分がおもしろいと感じたことを「おもしろレシピ」にまとめる。

この学習を通して、別の意味をもつ言葉を知ったり、その効果を知ったりすることができ、物語のおもしろさを味わうことができると考える。

6. 研究主題との関わり

本校では、「生き生きと学び、思考を作り上げる児童の育成～読む力が高まる国語科学習指導の工夫～」を主題に研究を進めている。本単元では、以下の点に留意して指導計画を作成し、学習の展開を工夫した。

研究仮説①

児童が目的意識をもって（教材文の）読解に向かうように単元構成を工夫すれば、主体的に読みを深める児童が育つであろう。

問題意識や目的意識を持続するために単元構成を工夫すれば、主体的に読みを深めていくことができると思う。そのために、物語のおもしろさを読み取り「おもしろレシピ」を書くことを単元のゴールとして設定し、完成したレシピを5年生同士で紹介し、読書センターにも掲示すると伝え、単元を通した目的意識をもてるようにする。また、児童が初発の感想で書いていた「物語のおもしろさ」につながる気づきを学習課題の設定に生かしていく。これにより、問題意識が持続でき、主体的に読みを深めることができると思う。

研究仮説②

対話を活性化させるための課題設定や手立てを工夫すれば、その対話を通して読みを深める児童が育つであろう。

単元を貫く「物語のおもしろさをレシピにまとめ、交流しよう」という学習課題を設定し、物語の構成や文章表現の工夫などから、物語のおもしろさを発見し、レシピにまとめ、伝える活動を通して、読みを深めることができると思う。

そのため、物語のおもしろさを読み取るために全文シートを活用したり、ワークシートを工夫したりする。そうすることで、自分の考えを持つことができ、対話が活性化できると考える。また、学級全体で対話する場面では、どの表現に着目したか、その根拠が分かるように拡大教材文を活用したり、板書での整理の仕方を工夫したりする。振り返りは、視点を明らかにして、読みの深まりを自覚できるようにしていきたい。

7. 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
おもしろさの工夫を探しながら物語を読み、自分の考えを深めようとしたり、友達と進んで交流したりしようとしている。	物語の構成をとらえ、物語のおもしろさを生み出す優れた表現を見つけて、自分の考えをまとめている。	物語の構成の工夫や、比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。

8. 単元の指導計画（総時間 10 時間 本時 5 時間目）

次	時	学習活動（★言語活動とのつながり）	評価規準
一		学習の見通しを立てる。	
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題「物語のおもしろさをレシピにまとめ、交流しよう」を知り、学習の見通しをもつ。 ・一番おもしろかったこと、表現の工夫などを感想に書く。 ★指導者が「おもしろレシピ」のモデルを示し、児童は見通しを持つ。	◇物語に興味を持ち、おもしろさや表現の工夫を探しながら読もうとしている。 【関心・意欲・態度】
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・初発の感想を交流する。 ・設定の確認をする。（時、場所、人物） ・「注文の多い料理店」という題名について考える。 ★題名や作者、登場人物などを「おもしろレシピ」に書きこむ。	◇優れた情景描写における語句の使い方に着目している。 【言語についての知識・理解・技能】
二		教材文を読み取り、おもしろさを生み出す「表現の工夫」を明らかにする、	
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・物語を4つの場面に分け、構成を捉える。 ・どこからどこまでが「不思議な世界（非現実）」に当たるかを確かめる。 ・物語の内容の大体を確かめる。 ★物語を一文で表すとどうなるか考え、「おもしろレシピ」に書き込む。	◇出来事を押さえ、物語の構成をとらえている。 【読む能力】
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・「始まりの場面」を読み、二人の紳士の人物像を読み取る。 ★「始まりの場面」の二人の紳士の人物像のおもしろさを「おもしろレシピ」に書き込む。	◇紳士の会話や行動からどのような人物かを読み取っている。 【読む能力】
	5 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・「山場に向かうところ」「山場」を読み、物語のしかけのおもしろさを読み取る。 ★「山場に向かうところ」と「山場」の紳士の勘違いを生み出す表現の工夫のおもしろさを「おもしろレシピ」に書き込む。	◇扉の注文と紳士の言動から物語のしかけのおもしろさを読み取っている。 【読む能力】
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・「山場に向かうところ」「山場」を読み、表現の工夫のおもしろさを読み取る。 ★「山場に向かうところ」と「山場」の表現の工夫のおもしろさを「おもしろレシピ」に書き込む。	◇表現の効果を考えながらおもしろさを読み取っている。 【読む能力】

	7	・「終わりの場面」を読み，二人の紳士の変化とそのおもしろさを捉える。 ★「終わりの場面」の紳士の変化とそのおもしろさを「おもしろレシピ」に書き込む。	◇紳士の変化とおもしろさを読み取っている。 【読む能力】
	8	・レシピを完成させ，「注文の多い料理店」について，おもしろさを交流し合う。 ★物語全体を通して，強く心に語りかけてきたことを「おもしろレシピ」に書き込む。	◇レシピを完成させ，物語のおもしろさについて交流し，考えを広げたり，深めたりしている。 【読む能力】
三	並行読書をした本から，物語のおもしろさを見つけ，レシピで伝え合う。 (*並行読書は家庭学習で行う)		
	9 10	・並行読書をした本から，物語のおもしろさを見つけ，レシピを書いて紹介し合う。 ★並行読書をした本の中で一番好きな物語のおもしろさを「おもしろレシピ」に書き込み，友達と交流する。	◇物語のおもしろさを見つけ，レシピで伝え合おうとしている。 【関心・意欲・態度】

9. 本時の学習

(1) ねらい

扉の注文と紳士の言動から物語のしかけのおもしろさを読み取ることができる。

(読むこと)

(2) 展開

時	学習活動	教師の支援 (○) 評価 (☆)
3	1. 本時のめあてを確認する。	○前時の学習を想起させ，本時の課題を確認する。 ○「山場」を確認し，二人の紳士が大きく変化したところを確認する。
	しんしは，なぜ，だまされていることに気づかなかったのか，物語のしかけを考えよう。	
7	2. 扉の言葉や紳士の言動から「おもしろいしかけ」を読み取る。 【ひとり学び】 ・物語のしかけと分かる所に赤でサイドラインを引く。 ・どうしておもしろいか，叙述から理由を考え，書ける児童は付箋に書く。	○今日，学習する内容が分かるワークシートと着目した叙述にサイドラインを引くための全文シートを準備する。 ○早く終わった児童には，他の物語のしかけを見つけたり，発表の準備をしたりするように声をかける。
5	【ペア学び】 ・お互いが見つけたおもしろいしかけとその理由を紹介し合う。	○一番おもしろいと思ったしかけから紹介し，その理由を伝え合う。その際，叙述を確かめ合うように声をかける。

15	<p>3. 物語のおもしろさを話し合う。</p> <p>【みんな学び】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「すぐ食べられます」 →すぐに料理を食べることができる →すぐにしんしを食べることができる ・「当軒は注文の多い料理店ですか ら・・・」 →料理を注文する →注文をして料理される ・「クリームをぬる」 「こう水をふる」 →都合よく考える紳士 	<ul style="list-style-type: none"> ○拡大教材文を横に置き、板書と対応させる。 ○発表者には、叙述に基づいて理由を挙げながら考えを話すように促す。 ○聞き手には、自分の意見と比べ、共通点や相違点を考えながら聞くように促す。 ○理由に着目し、考えが似ているところを続けて発表させ、意見をつなげていく。 <p>☆扉の注文と紳士の言動から物語のしかけのおもしろさを読み取っている。</p> <p>【読】(発言・ワークシート)</p>
10	<p>4. 今日の学習のまとめとして「おもしろレシピ」を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○物語のおもしろさを自分の言葉でレシピに書けるよう実態に応じて助言する。
5	<p>5. ふり返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ふり返りの観点を確認する。

(3) 本時の評価

十分満足できると判断される児童の具体例	おおむね満足できると判断される児童の具体例	支援を要すると判断される児童への指導の手立て
<ul style="list-style-type: none"> ・紳士のかんちがいを生み出す物語のしかけのおもしろさをいろいろ見つけ、その理由を自分の言葉で表現することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紳士のかんちがいを生み出す物語のしかけのおもしろさを見つけ、その理由を自分の言葉で表現することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語のしかけが発見できない児童には、扉の言葉に着目させ、理由を指導者と一緒に整理する。

10. 研究協議の視点

(2)について

全文シートやワークシートを活用し、叙述に即して根拠を明らかにしたり、おもしろさを見つける観点をしばったりして話し合ったことは、読みを深めるのに有効であったか。

《板書計画》

十／二十六（金）注文の多い料理店

宮沢 賢治

④ しんしは、なぜ、だまされていることに気づかなかったのか、物語のしかけを考えよう。

○○のおもしろさ

注文の多い料理店

↓ ① 店に注文する

↓ ② 店が注文する

すぐ食べられます

↓ ③ すぐに料理を食べることができる

↓ ④ すぐにしんしを食べることができる

○○のおもしろさ

↓ クリームをぬる

↓ こう水をふる